

近 事 雜 聞

□豫告の如く、本號は全部讀者諸君の寄稿より成り平生より紙數及挿繪を増加し、臨時増刊として出版致候。

□本號の全部に澱色紙を用ひしは、他の號と區別せんが爲めに候。

□次號(五月三日發行)には、本誌第七の口繪海の作者サー、フランシス、ポウエル氏の筆に成れる、同じく海の圖を出すべく候。この繪は前圖と大に趣きを異にし、極めて和らき描法にて、前圖と比較研究せば益多かるべしと存候。原圖はサー、ヘンリー、スミス氏の愛藏品にて、昨年本會より遙かにロンドン、スヅオ社を通じて、版刻の許可を受けしものに御座候。

□六月頃には、丸山晚雲氏の飛彈地方大寫生旅行の面白き紀行、多數の挿繪と共に出つく候。内容は言はぬが花なるが、幾多の冒險幾多の滑稽を含める極めて有興味のものに候。

□寄稿のうち優秀なるものに對しては、本會主任の肉筆エハガキ一葉を呈すべき筈なりしも、多數にて間に合兼候に付、代りとして風景畫貼を御送可致候。

△上野五號館開會中の太平洋畫會展覽會は出品畫も既に出揃い日々多數の入場者あり。水彩畫には藤島、平木、大橋、磯部、沼邊、中川、松木、長谷川其他數氏のほか京都よりの出品並に本會の丸山、眞野、大下諸氏の作もありて、點數二百に近しときく。

△同處に於ける巴會の展覽會は、陳列數は太平洋畫會の半にも満たざれど、水彩畫の出品多く石川、石原、東城、五姓田、織田の諸氏を初めとし、本會の鵜澤氏も多數のスケッチを出されたり。

△日本橋十軒店の門井學校内に移轉せし水彩畫講習所にては、本月より有志者にのみ戸外寫生を許し、講師同道にて丸の内附近の寫生を初めたり。猶同所は、校舎廣き爲め多數の講習生を收容し得べしといふ。

會 告

■學校又は同志の間に、寫生會、エハガキ會等の設けあるものは、其景況をなるべく詳しく通報せられたし

■前項團體及び個人の作品の現物、若くは寫

眞を寄贈せらるれば、優秀なるものに限り、寫眞版に付して、本誌に登載すべし但作品ははがき大に限る

■左の事項につき廣く投書を求む

□水彩畫に志し、最初の動機

□始めて戸外寫生を試みし時の感

□寫生中に起りし興味ある出來事

□畫を學びし爲めに得たる顯著なる利益

□其他水彩畫に關する意見報道小品文等

■以上×切の期を定めず、半紙十行二十字詰にて、簡単に、字體明瞭(假名は平假名に限る)に認められたし

■繪畫及寄稿にして、本誌に登載せしものの内優秀なる作に對しては、主任大下藤次郎の肉筆繪葉書一葉を贈るべし

■投稿の返戻を望まらるゝ方は相當の郵券を添へられたし

■水彩畫に關する質問にして、一般讀者に有益と認むるものは、答えを紙上に掲載すべし、但初めより返信料を添へられしものは直ちに答書を送るべし

■眞野紀太郎氏は、遠近法に關する質問に答えらるべし。

但複雑なる圖説を要するものは此限りにあらず